

～保護者の皆さまと  
学科をつなぐ  
ほっとライン～

# しまなみだより



第9号 平成29年10月発行

空の色も秋めいてまいりました。皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より本学の教育にご理解とご協力を頂きありがとうございます。

本学では、9月25日より後期が始まりましたが、1年生と3年生は一足早い開始となっています。9月11日から初めての臨床実習である基礎看護実習Ⅰを経験した1年生は、看護学生としての自覚が芽生え後期の授業に臨んでいます。後期から本格的な実習が始まっている3年生は、9月上旬に実施した統合実習で培った力をそれぞれの実習で発揮しています。9月下旬から授業が始まった2年生は、看護専門科目の基礎となる知識を蓄えているところです。4年生は就職活動や国家試験対策の他、社会人になるための様々な準備に余念がありません。

本号では、前期に行われた授業の一部をご紹介します。今後ともご支援をよろしくお願いいたします。（看護学科広報係）



8月8日に開催されたオープンキャンパスで在学生在が来場者に大学生活の紹介を行いました。終了後の記念写真です。



## 平成29年度前期 トピックス

### 1年生：語学教育



リニューアルしたCALL教室です。

県立広島大学では、大学生の基礎力としての語学力を付けるためさまざまな工夫をしています。共通教育の外国語科目の単位として必修科目を含め10単位以上の単位の修得を求めています。必修科目の半分は英語ネイティブ教員が担当し発信力の強化を図っています。また、日本国内だけでなく世界的に認知度の高いTOEICの受験を年1回受験料の補助を行うことで推奨し、英語の資格取得を促しています。さらに、実用的なコミュニケーション能力育成ため、CALL教室を今年度リニューアルし、医療の現場で必要とされる思考し協働する力を育てるためアクティブラーニングを導入しています。（本岡直子）



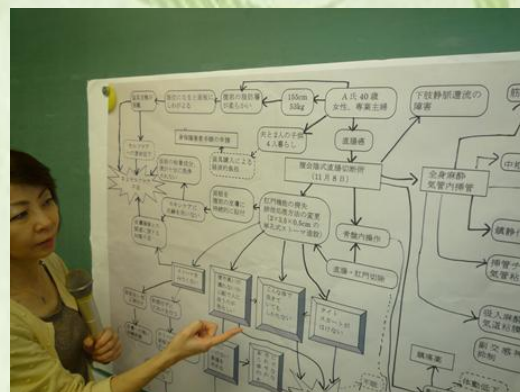
## 2年生：急性期看護論

2年生前期から看護の専門科目が急激に増えてきます。その一つである急性期看護論の授業について紹介します。

現代の医療は急激な進歩を遂げ、遺伝子の解明とともに医療の高度化は留まることがありません。すなわち、生命を脅かされた多くの人々が救命され、健康を取り戻すことができるようになってきました。しかし、外傷や手術などによって急激に破綻した健康は回復するまでに時間を要し、これまでの生活を再構成しなければならないことが多くあります。このような対象を理解し、援助の方法を学修するのが、本授業です。

まずは身体の構造を理解し、健康な状態から生命の危機状態に陥った場合に起こる身体のメカニズムを学修します。そして、治療に伴う症状や二次的に起こる合併症を理解し、身体に起こる変化を最小限に留める援助方法を修得します。さらに、生命の危機状態から脱した対象の身体、心理、社会的状況を把握し、その人の生活に適應するための看護を学修します。

ちょっと欲張りの授業のようですが、看護師の使命を担うために不可欠な科目となっています。(岡田淳子)



学生がグループワークで作成した看護関連図に教員が助言している様子です。



## 3年生：老年看護方法論Ⅱ

3年生の前期になると看護の専門領域に関する科目が増えるため、演習や課題も必然的に多くなります。老年看護方法論Ⅱは、高齢者の基本的な理解に基づいて、その看護を学ぶ科目です。例えば、嚥下機能の低下により経口摂取ができなくなった高齢者に対する栄養法として、経腸栄養法や胃ろう、多様な食形態について学びます。具体的には、モデル人形を使って経鼻経管栄養チューブの挿入技術や胃ろうへの栄養剤の接続技術を学んだり、高齢者用の食事を試食して特徴を学んだり、増粘剤を使ったとろみの付け方を実験的に行うなどの演習を行っています。その他、状況設定のシナリオを用いた技術練習を行うなど楽しく学べるよう学修方法にも工夫を凝らしています。ICF(国際生活機能分類)モデルを使った看護過程の学修も行い、学内で学んだことを後期からの実習で活かせるよう様々な準備をしています。(山中道代)



モデル人形を使って、経腸栄養の接続の技術練習を行っています。



様々な食品に増粘剤を混ぜ、とろみの付け方を学んでいます。

## 4年生：精神看護実習

精神看護実習では病棟での受け持ち患者を通じての実習，精神科急性期治療病棟の見学実習，自立支援施設見学体験実習に加え，身体合併症治療病棟，認知症治療病棟の見学実習を実施することで精神科看護について幅広く学ぶ機会を作っています。

実習 9 日目の学内日では，ラベルワークをした後に受け持ち患者への援助を通じての学びについて発表し，学修成果をまとめました。学内での成果を病棟においても発表し，病棟スタッフより「逆に勉強させられた」「初心にかえることができた」などの反響がありました。

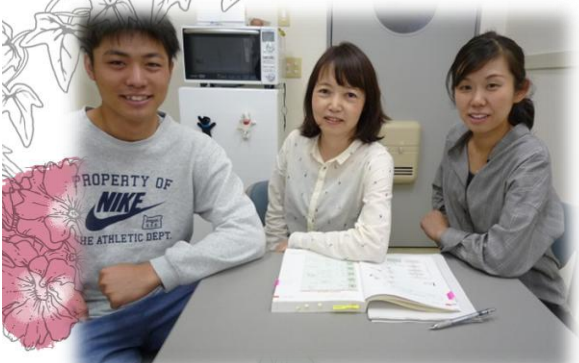
来年度から精神障がい者の地域生活支援に向けた取り組みを学ぶことができるよう，精神科訪問看護実習をスタートさせる予定です。訪問看護師に同行し，精神疾患をもちながら地域で生活している様子や看護の実際を見学することで，精神科で行っている訪問看護の意義について考える機会になることを期待しています。（井上誠）



実習まとめの会での発表の様子です。



## 教員の紹介 青井聡美教授



青井教授(中央)

基礎看護学を担当しています青井聡美です。昨年度より就職進路相談を担当しています。就職試験は以前に比べ難しくなっていると感じます。しかし，看護学科では毎年就職率は 100%を維持しており，全員が希望する病院等に就職できるよう支援していきたいと思っています。

同じ領域の教員が人間ドックを定期的受けていることに感化され，7 月に，人生 2 回目人間ドックに行ってきました，今回は，以前から一度検査してみたいと思っていた脳ドックとマンモグラフィーをオプションで追加して検査を受けました。マンモグラフィーと脳ドックの結果は異常なしでしたが，血液検査結果から生活改善をすすめられてしまいました。「健康は第一の富である」と言われています。皆さんも自分の健康を大切にしてください。私は，健康であり続けるために，現在，週に 1～2 回，車通勤から徒歩通勤にかえて頑張っています。（青井聡美）



学生と卒業研究の実験をしている青井教授(右)

## 学生さん いらっしゃ〜い!

今回は平成29年度学業成績優秀者学生表彰に選ばれた山本さんをご紹介します。

私は、課題やテスト勉強を友達と一緒にやるようにしています。一緒に勉強することで、教科書や本のどこを見ればいいのか分かったり、自分では深く考えずにいたところに気づくことができ、お互いにプラスになることがたくさんあります。

3年前期は課題がたくさんありましたが、みんなで支えあえました。それでも、やる気が起きないときもあります。そうすると、生活にゆとりがなくなったり、中途半端な状態で課題を出すことになるので、そんな時はとりあえず自習室や図書室に行ってみたり、友達を巻き込んでみたりして頑張りました。

時間のある1,2年生のとき、ボランティアや読書などで興味のあることを見つけたり深めたりできたよかったです。今になって思います。その時その時で大変なことがあります。興味を持ったことには取り組めるといいなと思っています。

大学では、各種活動等優秀者、学業成績優秀者などを表彰する制度があります。平成29年度学業成績優秀者として三原キャンパスからは17人(看護学科は6人)が選ばれました。学生表彰式では、学長から表彰状を受け取りました。



平成29年度3年生  
山本千晶さん



7月24日の学生表彰式の様子です。

## 〜卒業生 頑張っています!〜



平成23年度卒業生  
坂本 悠さん  
県立広島病院 助産師

卒業後、県立広島病院産科病棟で看護師・助産師として勤務しています。当院は総合周産期母子医療センターとして、ハイリスク妊娠・分娩の管理を行う役割を担っています。ハイリスク対象者には特に、妊娠期から地域に帰るまで、切れ目のないサポートが必要とされており、当院でも退院支援に力を入れています。私は特に、多胎支援や産後うつへのスクリーニングに関するケアチームを担当しており、他職種との連携を図りながら、お母さんたちが少しでも不安なく退院できるよう調整をしています。また、正常な過程をたどっておられる妊婦さんを対象に、助産外来も担当させていただき、助産診断・超音波・保健指導など、スキルアップの機会をいただいています。

助産師は病院以外でもたくさんの活躍の場があり、自分の興味のある分野や極めたい分野を深めていける仕事です。当院は県立広島大学助産学専攻科の実習施設のひとつでもあるので、皆さんの中から助産師を目指す方が来て下さるのを、心待ちにしています。

看護学科「学生生活通信」について ご意見、ご感想などお寄せ下さい。  
〒723-0053 広島県三原市学園町1-1 TEL 0848-60-1120(代表)  
FAX: 0848-60-1134(代表) E-mail: nskouhou@pu-hiroshima.ac.jp  
発行: 県立広島大学保健福祉学部看護学科 広報係